

**Method for making cigarettes and cigarette using this method.**Patent Number:  EP0506610

Publication date: 1992-09-30

Inventor(s): FRANC CLAUDE (CH)

Applicant(s):: BURRUS HOLDING SA (CH)

Requested Patent:  JP5111372

Application Number: EP19920810185 19920313

Priority Number(s): CH19910000908 19910325

IPC Classification: A24B15/28 ; A24C5/24

EC Classification: A24B15/28B2, A24C5/24, A24C5/18T

Equivalents: JP6095921B

**Abstract**

In making cigarettes, the tobacco core (1) is wrapped in a paper strip (2). One of the edges (2a) of the strip (2) is glued on the side to be applied to the edge (2b) by means of the device (5), after which the forming tool (3) seals the rod. The glue deposited by the device (5) contains in solution the quantity of top note needed to give the cigarettes their final desired flavour. 

Data supplied from the **esp@cenet** database - I2

(51) Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 2 4 C 5/24		6807-4B		
A 2 4 B 3/12	C	6807-4B		
15/30		6807-4B		
A 2 4 D 1/00		7229-4B		

## 審査請求 有 請求項の数 8 (全 4 頁)

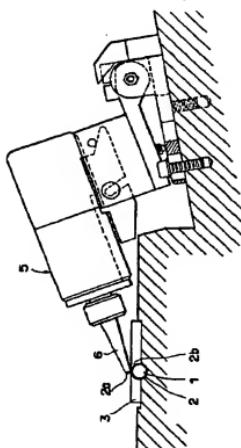
(21)出願番号	特願平4-98756	(71)出願人	592087142 バルース ホールディング ソシエテ ア ノニム BURRUS HOLDING SOCI ETE ANONYME スイス連邦, ボンカート 2926番地
(22)出願日	平成4年(1992)3月25日	(72)発明者	クラウゼ フランク スイス連邦, ボンカート 2926, クアトレ ベンツ 5
(31)優先権主張番号	0 0 9 0 8 / 9 1 - 0	(74)代理人	弁理士 旦 篤之 (外2名)
(32)優先日	1991年3月25日		
(33)優先権主張国	スイス (C H)		

## (54)【発明の名称】 巻きタバコ及びその製造方法

## (57)【要約】

【目的】 簡単でしかも経済的な巻きタバコ製造の改良法の提供。

【構成】 巻きタバコの製造において、中身となるタバコの棒状体が用紙ウエブ2 内に包まれる。ウエブ2の端縁2aの一方が、糊付け装置5 を用いて他方の端縁2bの上に重ね合わされるように糊付けされ、その後に成形工具3 がその巻きタバコ棒状体を封止する。糊付け装置によつて塗布された接着剤は、所望の最高級の香味を巻きタバコに与えるに必要な量の上等な香味を溶液内に含有してゐる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 巻きタバコの製造方法であって、前もって準備した中身のタバコの棒状体を用紙ウエブ(巻紙腹部)内に包み、ウエブの端縁の一方に沿って接着剤を塗付し、このウエブの両縁部を接合して巻きタバコ棒状体を形成するこれらの段階からなり、総目接着剤にのみ添加物を混入してタバコの品質を改善する段階を更に有してなることを特徴とする巻きタバコの製造方法。

【請求項2】 接着剤を用紙ウエブに塗布するに先立って溶液に加えた添加物を接着剤と混和する段階を有することを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項3】 接着剤を用紙ウエブに塗布後で且つウエブの両端縁を接合する前に接着剤に添加剤を分散する段階を有してなることを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項4】 使用添加剤の種類とその使用量は、予め設定した最終的の香味効果が、使用量の作用によってのみ得られるように、しかも接着剤の性質に与える前記使用量の影響が特に目立たないように選択されてなることを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項5】 添加剤は最高級香味をもつことを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項6】 添加剤は、パニリン、エチルパニリン、マルトール、フラナル、ピラジン、ラクトン、酸類、エノール類、植物抽出物及び果実抽出物のような、タバコに香味を与えるために使用される一種もしくは一種以上の芳香成分から成る組成をもつことを特徴とする請求項5に記載の方法。

【請求項7】 総目接着剤を用いて形成された総目と、そして前記総目接着剤の中にだけ含まれ、そしてタバコの品質を改善する添加物とを有してなることを特徴とする請求項1に記載の方法により製造された巻きタバコ。

【請求項8】 前記総目接着剤に含まれる前記添加物は予め設定された量だけ含まれてなることを特徴とする請求項7に記載の巻きタバコ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はタバコ製品の製造に関し、更に詳しく述べて、巻きタバコの製造法に関し、この製造法の種類では、前もって準備した中身のタバコの棒状体を用紙ウエブ内に包み、ウエブの端縁の一方に沿って接着剤を塗付し、そして総目を糊付けして巻きタバコ棒状体を形成するこれらの段階からなる。本発明は更に、前述の方法によって製造された巻きタバコに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 市場の要求に効果的に合致するように巻きタバコを製造するには、多くの種類の類似しているながら互に相違する製品を市場に絶えず供給させていかなければならない。このように、両切りタバコの貯蔵から始まって、生産における一つもしくはもう一つの段階にお

いてはこの貯蔵タバコを複数の単位処理体に分割する必要を生ずるのであって、この単位処理体すなわちバッチは、夫々タバコの処理工程と最終的条件調整が異なっている作業に、順次向けられる。今日まで、各種の最終製品を製造するという観点から、タバコの生産処理作業は、必然的に、既に異なる調整作業を経た、タバコの貯蔵物を分割して異なる場所に配置し、一時的に貯えることをするようになっており、貯蔵時間をできるだけ短縮し貯蔵量をできるだけ少なくするような方法で製造を組織化することに努力されてきたのである。実際に行われる各種の異なる調整方法では、前述したような観点から各種の添加物をタバコに組入れることに配慮がされねばならず、これら添加物の混合物はタバコの最も香りの一端を担うものであり、そのタバコの独特な性質を与えることになる。巻きタバコ製造方法は各種の製品によって区別されねばならないので、処理工程の多様化の問題が起つてくる。例えば、問題の添加物にしても各種各様の香料があり、これらは水、アルコール、あるいはその他適当な媒剤により溶液状に調整されるのであって、それを両切りタバコの貯蔵品に噴霧して、目的の巻きタバコを製造するのである。

【0003】 消費財の生産のあらゆる過程においては、製造原価を低減するために、可能な限り効率的に操作するよう絶えず探究される。今や、巻きタバコ棒状体が形成される時点まで、所謂「ヘッド香味」といわれる香味剤の少なくとも何種類かを導入することによって、巻きタバコ製造用のタバコ処理工程を適当に簡略化することが可能であることが分かっている。

【0004】 これまでに提案されているものに、例えば、米国特許No.4941486、No.3625224そしてNo.3041211があり、これらはある種の添加物を、巻きタバコの製造中に総目接着剤中に添加することを提案している。しかし、これらそれぞれの場合では、装置が本発明の目的以外の特定の目的に採用されている。そのため、米国特許No.4941486によれば、「香味の前駆者」の導入について、タバコの煙に特定の香味を与えるように設計されるのであって、タバコの質の改善は特に意図されていない。米国特許No.3625224及びNo.3041211はタバコの質の改善に関しており、その方法は添加物を用いることであり、この添加物は、噴霧、浸漬あるいはその他の方法により加えられ、しかしこれらの特許で示している技法は本発明によって与えられるような操作の効率向上を提案するものではない。

## 【0005】

【本発明の目的】 従つて、本発明の目的は、巻きタバコ製造の改良法を提供することであって、本法では在来法と比較して簡単でしかも経済的であるばかりでなく、同時にタバコの品質を改善するものである。

【0006】 この目的のために、本発明に係る方法では、頭初に説明した種類の方法でいうと、タバコの品質

を改良する添加物は、単に綿目接着剤の中にだけ入れられる。

【0007】一般的に、添加剤はタバコに対して予め設定した香味を与えるように配分される。

【0008】前述の方法により製造された巻きタバコにおいては、タバコの品質を改善する添加物は綿目接着剤だけに含まれている。

【0009】

【発明の構成・効果】本発明の好適実施態様について、ここで、添付の図面を参照しながら詳しく述べる。図1は略図的正面図であって、その一部は断面を示し、この装置により本発明に係る方法が実施される。

【0010】巻きタバコの製造における最終的操作は公知のように用紙エップの中に含まれた中身となるタバコの棒状体からなる一連の巻きタバコ棒状体を裁断して一定長さの棒状体となし、両端縁は重ね合わせされ互に糊付けされる。この巻きタバコ棒状体は、これ自身次のようにして形成される。すなはち、前もって実施される各種の調整作業を受けた両切りタバコ貯蔵品は、ここでは詳細説明の必要はないが、容器内にバラ積みで納められ、そこから吸引して出され一般的には、コンベヤベルトで搬送され、そこで連続性円筒状棒状体に形成される。この時点で、用紙エップが連続的に巻紙体から出されて中身のタバコの棒状体を包み込む。このエップの両端縁の内一つは接着剤が塗布され、ここで形成された巻きタバコ棒状体は成型工具の中に導入され、ここでエップの両端縁は重ね合わせされ互に糊付けされる。この糊付けにより綿目が形成される。

【0011】添付の図1は中身となるタバコ棒状体1と、用紙エップとの断面を示し、断面の背後には成形工具3の正面図がみられる。

【0012】工具3と断面との間に着装されて装置5があり、この装置5はエップ2の端縁2a(図の左にみられる)がノズル6の端の直前を通るように配置されたノズル6を有する。装置5は図示していない適当な手段により、例えばボリビニールアセテート糊のような液体接着剤が与えられる。液体の濃度もしくはゼラチンの接着剤の望ましい量が装置5に加えられる圧力の作用により接着されエップ2の端縁2aの縫合部に毛管現象で入ってゆく。ここで説明した方法の実施態様においては、例えば、バニリン、マルトール、フランネル、ピラジン、などのような最高級香料の芳香性化合物は、前もって接着剤中に溶解され、その結果、この種の芳香性化合物をもったタバコの種類に変えることを所望する場合、装置5によって塗布された接着剤を変えるだけで充分目的を達すことができる。タバコを製造するための前述の操作は、全てが同じであって、しかも区別化した貯蔵の必要性はもはやない。

【0013】これまでに分かることは、各種の香味剤

に対して、それぞれの巻きタバコの中に入れられねばならない全量は、接着剤に対してその気体特性を変えることなしにこれに添加して得られるということである。それぞれの溶剤に加えられる現在使用中の香味剤の量は、タバコに対して重量%で1.5%の程度であり、溶剤を用いない香味の同一量が、包装紙(エップ)を糊付けするために用いられる接着剤の質量内に含ましが可能であるということがこれまでに分かっている。又、接着剤は固定剤として作用し、その効果、前と同様な効果を得る上で必要な香味の量は低減可能であるということも分かっている。

【0014】接着剤の中に香味剤を導入することは、タバコの製造処理並に貯蔵を更に効率化を図る以上にもっと他の利点をもつていて、特に、香味をつけたタバコに必要な熟成期間は、香味剤が接着剤内に固定される場合は、噴霧でタバコに吹き付けた場合よりも短時間ですむ。加えて、香味の安定性は、もしこの方法で作られた巻きタバコの発煙中の香味の放散がより正常に行われ、一層良好となる。

【0015】これに対して、上述の実施態様においては、「ヘッド香味」は装置5にゆきつく前に接着剤の中に溶け込まれ、この方法は同様に他の方法でも実施されても良い効果を生ずる。このように、特に、分散装置が、接着剤塗付装置5から直下の下流内に置かれ、用紙エップ糊付け部分に加えた香味剤の分散は、エップが成型工具3で重ね合わせられる前に実施される。

【0016】接着剤を利用するやり方で、香味の全量を巻きタバコ内に導入することが可能であり、それにより、予め想定された特種性をタバコに付与する。接着剤3に溶融された溶液内の香味剤の量、あるいは、成形工具の入口で糊付けされたエップ部分に分散した香味剤の量にも一種の香味剤だけでなく、数種の香味剤の混合物を含有させることは同様に可能であり、しかもこの混合物の量だけで所望の独特な性質を巻きタバコに与えることが同様にできる。この巻きタバコを製造する観点からは特種性をもった香味を導入することはタバコの処理過程から完全に除くことができる。この方法で調整されたタバコは、従って、また異なる最終品質をもつた一種あるいはそれ以上の種類の巻きタバコの製造においても用いることができよう。

【0017】注意しなければならないことは、使用用紙の品質は上述の方法を実施する上で特に問題とはならないということである。一般に使用されている用紙は接着剤を受入れるに容易であり、この中に香味剤が溶け込みむ。実施例を用いて、以下のデータを示す：巻きタバコの生産に用いた接着剤の標準量は巻きタバコ3,500本当たり4.4 gである。この値はボリビニールアセテートの場合である。これまでに分かっていることは：接着剤1,000 g当りエチルバニリンのような香味剤の65.6 gがその有効性が、在来の技術に基づく、タバコのKg当たり

0.1 g の香味剤の効果と等しい効果を生ずる。これらの発見はアメリカ混とタバコによって行われたものである。これらは同様に多種のタバコに対しても有効である。左記に説明した香味剤は全て、これらが単独に、指示された割合で総合接着剤中に入れられた場合に感知できる程の品質改善を生ずる。接着剤に対する効果は、感知できない。説明した方法の重要な結論は、接着剤を溶かすためにこれまで用いられてきた溶剤が不要であるということである。

【0018】最後に、注意しなければならないことは、説明した方法においてエチルバニリンを用いることは、一方では喫煙したタバコの味に芳香性効果を与える、他方

では副次的な芳香効果を生ずるということである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る巻きタバコ製造方法を示す略図的正面図であって、部分的に断面図となっている。

【符号の説明】

- 1 中身となるタバコの棒状体
- 2 用紙ウエブ
- 2a 端縁
- 2b 端縁
- 3 成形工具
- 5 褶付け装置
- 6 ノズル

【図1】

